

氷ノ山 1510m (兵庫・鳥取県)

DATE : 2004 年 3 月 14 日 (日)

Course : 若狭氷ノ山スキー場 ~ 山頂 ~ わさび谷 ~ 若狭氷ノ山スキー場

Member : 石野 (L) K2 168cm, FRITSCHI DIAMIR2, GARMONT G-RIDE

横小路 K2 168cm, FRITSCHI DIAMIR2, SCARPA DENALI

大本 HAGAN FREERIDE 170cm, FRITSCHI DIRMIR3, NORDICA TR-12

Weather : 快晴

天気は快晴、夕方より曇の予報。若狭氷ノ山スキー場から登り、念願のわさび谷を下る。

8:20 770m 若狭氷ノ山スキー場リフト

スキー場までの道は凍結を防ぐためか川のように水が流れていた。今日は無料駐車場に停める予定であったが、駐車場代が無料であることを教えてもらい上まで車を上げることができた。その為か客は多く、車がどんどん上に上がっている。リフト料金は1回券が250円で2回乗ると最上部に到着する。一番左のリフトを使用する。スキー客はリフトを途中で降ろされるが登山者であることを言うと最上部まで乗せてくれた。

8:33 1190m リフト最上部

あつという間に1200m付近まで来た。ここからは急登でシールでは行けない。ボクと横小路氏は引っ張り、石野氏は担ぎで登る。

9:45 1464m 三ノ丸展望台

写真を撮りながらゆっくりと進む。アイゼン、スノーシュー、テレマーク、様々なスタイルの登山者が続々と上がってくる。

10:20 1509m 氷ノ山山頂

途中、本日滑降予定のわさび谷を偵察し、山頂着。

昼まで時間があるので雪上テーブルを作り、ザックをデポ。3本ほどブナ林の中を滑降した。雪質は午前中ということもあって“いつも”の氷ノ山のスキーとは少し違っていた。

12:20 昼食

昨日に続き本日も雪上パーティ。ホント最高です。隣で同じように雪上パーティしている年配の登山者は陽気に歌を歌っていた。扇ノ山をバックにビールで乾杯！昼食後、横小路氏がシュプールのない北斜面へ滑り込んだ。ボクと石野氏は昨日のくらますと午前中の滑りで大満足であった。

13:29 下山開始

時間的に少し早いが出山とする。途中でシール装着。わさび谷を目指す。



リフト最終からの急登 20分



一滑りしてビールで乾杯！（後方は扇ノ山）



13:54 1420m わさび谷滑降開始

昨日のくらますの帰りの谷よりかは傾斜は緩やかである。木も比較的少ない。しかし、気温の上昇と高度を下げるに従って雪の状態が悪くなってくる。

——わさび谷上部

わさび谷最大斜度(?)を見上げる——





14:10 1000m わさび谷滑降
1000m 付近までずっと下りで足はパンパンになってしまった。この辺りから徐々に沢が出てくるので谷沿いにトラバースしながら進む。石野氏はこのトラバース中に3、4回転の物凄い大コケ。あと5mで沢に落ちるところであった(^;:。



水が出てくると沢合流地点まで谷をトラバース

高度 1000m 付近で振り返る



左の沢を渡る

14:21 950m 沢合流

左右の沢の合流地点で登山口のような標識が出てくる。ここからスキー場へ出るように左の沢をスキーを脱いで渡り、さらに山の腹を巻いていく。

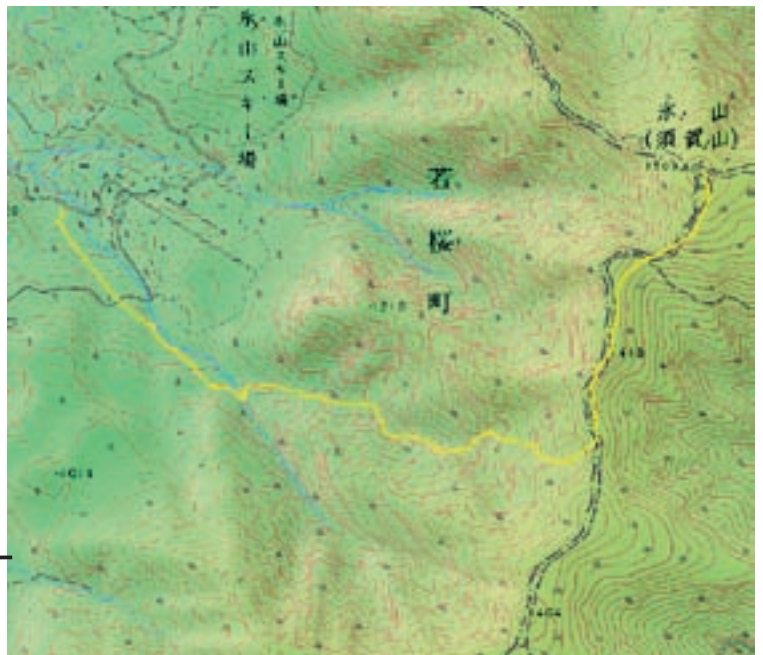
14:37 870m 若狭氷ノ山スキー場着

スギ林の中をひたすらトラバースしながら進むとスキー場のリフトにドンピシャで出てきた。後はスキー場を滑って終了。今日の風呂もやはり最高であった。

今回初めての若狭側からのアプローチであるが、しんどのいは最初 20 分だけで後は稜線伝いで非常に楽であった。これならだれでも来るであろうと感じられるほどだ。目標のわさび谷滑降は比較的緩やかな斜面であった。我々には少し物足りない感があった。谷の狭い所では左右の雪崩には注意したい。そして最後は藪スキー。「これぞ播州の山スキー」と思わせる 1 本である。2 日連続の山行で疲れたがこの天気の良いさは今シーズン最高であった。



藪&スギの中をひたすらトラバースするとスキー場へ辿り着く



わさび谷滑降ルート
GARMIN GPS MAP76 にて計測